



楽器博物館 20周年記念 大倉集古館の特別協力で実現 特別展 「和魂洋才・オークラウロと大倉喜七郎」



本日 11 月1日から特別展「和魂洋才・オークラウロと大倉喜七郎」が始まりました。オークラウロという名前の楽器、聴いたことも見たこともない、という方がほとんどではないでしょうか。昭和 10 年に発表された楽器で、昭和 20 年の敗戦まで東京を中心に隆盛を極めた楽器です。尺八の歌口（吹く部分）と西洋のフルートの胴体を合わせたもので、すべて金属でできています。男爵・大倉喜七郎（おおくらきしちろう・1882～1963）が、日本の尺八の音質や音階を改良しようと考案・制作した新型管楽器です。名称は、大倉という姓とギリシアの古楽器アウロスを合体して作ったものです。

喜七郎は大倉財閥の創始者・大倉喜八郎の長男として生まれ、イギリス・ケンブリッジ大学に留学してヨーロッパ文化を吸収し、父の死後は大倉財閥の 2 代目として事業を継承しました。さらに、ヨーロッパ式の本格的な観光ホテルとして上高地帝国ホテル、川奈ホテルなどを設立、日本のホテル業に大きな功績を残したことで有名です。先日、本館の営業終了で話題となった東京のホテル・オークラを設立したのも喜七郎です。

喜七郎は屈指の趣味人、文化のパトロンとしても知られ、美術やスポーツに多くの功績を残しましたが、特に音楽を愛好し、自らは尺八を演奏、また新しい日本音楽「大和楽（やまとがく）」を創始しました。西洋の 12 音階で西洋音楽を自由に演奏できるように尺八を改良したのが

このオークラウロで、異なるサイズのものも作り、オークラウロのアンサンブルを実現しました。オークラウロ協会も設立され、当時の尺八の名人や西洋音楽の演奏家、作曲家も多数参加して、オークラウロの演奏会や研究会、楽器の改良などが盛んに行われました。

この展覧会では、喜七郎が海外渡航に使った大型トランクや、初期からのオークラウロのモデル、教則本、参考とされたフルート教則本、フルートの神といわれたマルセル・モイーズから喜七郎へ贈られた自筆サイン入りフルート教則本「ソノリテ」（国立音楽大学附属図書館蔵）、英国ルーダール・カルテ社製作のピッコロ、アルト、バスのオークラウロ、オークラウロ演奏会プログラム（日本近代音楽館蔵）、オークラウロのための作品募集で入賞した山田和男の自筆楽譜（東京藝術大学附属図書館蔵）、楽器の改良や作曲・編曲に功績を残した平井貴四男（ひらいきしお）の自筆譜（個人蔵）や、横吹きのオークラウロなど、各界から集められた資料約 50 点を展示しています。また、会期中の 7 日（土）夜には楽器博物館天空ホールにて小湊昭尚らによるレクチャーコンサートが開催されます。東京では 2011 年から大倉集古館のプロジェクトでオークラウロの展示やコンサートが盛んに開催されていますが、浜松では初披露になります。

尺八ともフルートとも違うオークラウロという楽器、その魅力を実感してみたいはいかがでしょうか。

20周年記念「麗しきウィーン～吹奏楽とトランペットコアー」

9月27日(日)に楽器博物館20周年記念のレクチャーコンサート、「麗しきウィーン～吹奏楽とトランペットコアー～」を開催しました。指揮は、元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団バストロンボーン奏者のカール・ヤイトラーさんです。

第1部は浜松トランペットコアーによる華々しいファンファーレで幕を開け、その後、「ウィーンと私～吹奏楽とフィルハーモニー～」というテーマで、ヤイトラーさんの生い立ちから、これまでの活動についてスクリーンの写真を見ながらお話を伺っていきました。聞き手は嶋館長、通訳は寺田憲重さんです。



ヤイトラーさんはウィーンから列車で1時間ほどのグローフェンバッハという小さな村に生まれ、この村には1901年に設立された25人ほどで

構成されている吹奏楽団があります。生まれた時からこの吹奏楽団の音を聴いていたヤイトラーさんは、12歳から伯父の手ほどきによりトロンボーンとユーフォニアムを始め、15歳の時に、この吹奏楽団に入団しました。18歳からはウィーン国立音楽大学で勉強をしながら音楽活動を始め、ウィーン・フォルクスオーパー、ウィーン交響楽団を経てウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入ります。現在は、吹奏楽団やトランペットコアーの指導者、指揮者、音楽監督として音楽活動をされています。ヤイトラーさんの活動とともに、金管楽器が徐々に変化していく様子も写真を通して知ることができました。

第2部は浜松トランペットコアーによる演奏でした。トランペットコアーとは、「トランペット、トロンボーン、チューバからなる金管アンサンブル」のことです。ヤイトラーさんによると、ウィーンで初めてのトランペットコアーが誕生したのは1920年頃だそうです。最初は7人で構成され、

トランペットコアーではなく管楽器コアーと呼ばれていました。今回は、ヨーゼフ・ハイドン作曲の「聖アントーニのコラール」をはじめ、ファンファーレやコラールを演奏して頂きました。金管楽器だけのアンサンブルは、パワフルで迫力もありますが、ハーモニーがとても澄んでいて心地の良いものでした。



浜松トランペットコアー

第3部は天竜楽友吹奏楽団による演奏でした。団員の年齢層が幅広く、世代や地域を越えて音楽を楽しむ姿が印象的でした。「ウィーンスタイルの吹奏楽」ということで、一般的な吹奏楽では使われていない楽器も登場しました。例えば、バスフリューゲルホーンや、ロータリーフリューゲルホーン、ロータリートランペットです。現在使用される多くのトランペットはピストン型なので、ロータリー型とはバルブのシステムが違います。また、ロータリー型はピストン型よりも柔らかい音がするのが特徴です。そして、ヨーゼフ・シュトラウス作曲のワルツ「オーストリアの村つばめ」をはじめ、ウィーンならではの曲を演奏して頂きました。



天竜楽友吹奏楽団

最後のアンコールでは、天竜楽友吹奏楽団による「美しき青きドナウ」と、浜松トランペットコアーとの合同演奏で「ラデツキー行進曲」が演奏され、盛大に締めくくられました。

ヤイトラーさんのお話や2つの異なるアンサンブルの響きから、ウィーンの薫りをたっぷり堪能できたコンサートでした。

日時：平成27年9月27日(日)14:00～17:00

会場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール

出演：カール・ヤイトラー(指揮)、天竜楽友吹奏楽団、浜松トランペットコアー

入場者：107人



楽器の中の聖と俗

エストニア・ラトビア・リトアニア～森と湖、バルトの歌ごころ～

西岡信雄氏（当館名誉館長、大阪音楽大学名誉教授）による講座「楽器の中の聖と俗 エストニア・ラトビア・リトアニア～森と湖、バルトの歌ごころ～」（全3回）を開催しました。バルト三国として知られるこれらの国々には、この地ならではの珍しい音楽文化があります。「歌」「踊り」「楽器」の3つのテーマに分け、フィールドワークで実際に撮影してきた様々な映像を見ていきました。

バルト三国では伝統的な文化として「歌」と「踊り」が日常の中に当たり前のように存在しています。「歌」の中でも合唱が大変盛んで、毎年各地で「民族大合唱祭」が開催されます。その背景にはソヴィエトに40年以上併合された後、独立した際に起こった、歌声による民族運動が大きく関係しており、その伝統が今でも受け継がれているといえます。合唱が盛んなこの国では、作曲家は人気の合唱曲を書くことで認められるというほどです。

また、合唱だけではなく北欧の古い歌唱形式を残すルーノ



民謡、スタルティネスと呼ぶ特徴的な多声カノンなど、この地ならではの歌唱法が残っています。そして人々は歌うときには必ずダンスステップを踏んでいます。

バルト三国の「踊り」には大きく分けて2つあり、民族衣装で歌いながら踊るフォークダンスと大人数でおそろいの衣装を着て踊るマスダンスがあります。フォークダンスは日常的な場面や、訪問者をおもてなしするために行い、



マスダンスは国民的スポーツのような存在でもありません。

「楽器」の回では映像に加えて実物も登場しました。演奏の仕方も分からないようなもの、原始的なものなど珍しい楽器がたくさんあり、受講者も興味深そうに見ていました。その中のひとつ短い縦笛「スクドゥチャイ」は高さの違う笛を数人が掛け合いで合奏する楽器で、講座では受講者の中から4名の方に実際に体験してもらった場面もありました。現地の研究者によるとバルト三国では、楽器を分類する際、労働用、行事用、瞑想用、舞踊用の用途別に4つに分類することがあるようで、これは珍しい分類法です。

伝統的な文化としてダンス、歌、音楽が当たり前のように存在しているバルト三国。他のヨーロッパ諸国に比べると、僻地にあり、他の国からの影響、キリスト教の影響を受けてこなかったため、この国独自の文化が今もなお受け継がれ、守られているのだそうです。



第64回 「歌声が人々の絆」

平成27年9月4日（金） 19:00～20:30 受講者：25人

第65回 「おもてなしのフォークダンス」

平成27年9月18日（金） 19:00～20:30 受講者：16人

第66回 「楽器を作る、奏でる」

平成27年10月2日（金） 19:00～20:30 受講者：17人

会場：楽器博物館 展示室

講師：西岡信雄

ミュージアムサロン スチールパン～天空ホールに響く柔らかな音色～

シルバーウィーク最終日の9月23日（水）には松井奈都子さんと伊澤陽一さんによるスチールパンの2重奏を楽しみました。スチールパンはトリニダード・トバゴという南アメリカの島国で誕生した楽器です。ドラム缶から作られ、一番音域の高いテナーパンの場合には28ほどの音が出せます。今年は天空ホールで何度もスチールパンが演奏されましたが、一緒に演奏する楽器によって響き方が変わります。今回はテナーパン、チェロパンなどいろんな音域のスチールパンが登場し、お互いが共鳴し合っるととても心地よい響きが会場を包み込みました。伊澤さんのオリジナル曲に加え、「椰子の実」や「パン・フォー・カーニバル」などが演奏されました。

コンサート終了後には体験用のスチールパンを用意してくださり、大人も子どもも興味津々に体験していました。



日時：平成27年9月23日（水）14:00、15:30（各30分）

会場：楽器博物館 天空ホール

出演：松井奈都子、伊澤陽一 入場者：143人

中山真さん～教育文化奨励賞 地域文化賞受賞～



楽器博物館所蔵の数十点にも及ぶヨーロッパ鍵盤古楽器の保守点検を長年担当していただいている中山真さん（磐田市在住）が、浜松市教育文化奨励賞の地域文化賞を受賞されました。

中山さんは、楽器製造会社勤務の頃から退職後も含めて24年間もの長きにわたり、楽器博物館所蔵品である16世紀から19世紀のヨーロッパ鍵盤古楽器の調整や修復を担当されています。ピアノの発明者クリストフの



ピアノの復元品(展示中)の製作を中心になってされたのも中山さんです。国内外から高い評価を受けている楽器博物館のCDやレクチャーコンサートも、中山さんの鍵盤楽器の保守や調律なくしては実現しませんでした。鍵盤古楽器は、現代の鍵盤楽器に比べると非常に繊細で、調律や修理には非常に高い技術と音楽性が

要求されます。19世紀のオリジナル鍵盤楽器そのものが世界的に貴重な文化財でもありますので、文化財の修復と言えます。

楽器の演奏には、演奏者の力はもちろん必要ですが、それを支える縁の下の力持ちがいなくてはなりません。普段は演奏家に注目がいきますが、陰で支える技術者に光が当てられたのは大変喜ばしいことです。中山さんの今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

博物館日誌

- 9/4 (金) 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
「エストニア・ラトビア・リトアニア～森と湖、バルトの歌ごころ～」
①歌声が人々の絆」
19:00 展示室 講師：西岡信雄 受講者：25人
- 9/15 (火) ～ 17 (木) 移動楽器博物館 浜松市立大瀬小学校
- 9/18 (金) 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
「エストニア・ラトビア・リトアニア～森と湖、バルトの歌ごころ～」
②もてなしのフオークダンス」
19:00 展示室 講師：西岡信雄 受講者：16人
- 9/23 (水) ミュージアムサロン「スチールパン」
14:30、15:30 天空ホール
出演：松井奈都子、伊澤陽一 入場者：143人
- 9/27 (日) レクチャーコンサート
「麗しきウィーン～吹奏楽とトランペットコア～」
14:00 音楽工房ホール
出演：カール・ヤイトラー (指揮)、
天竜楽友吹奏楽団、浜松トランペットコア
入場者：107人
- 9/29 (火) ～ 30 (水) 移動楽器博物館 浜松市立城西小学校
- 10/2 (金) 講座「楽器の中の聖と俗」(全3回)
「エストニア・ラトビア・リトアニア～森と湖、バルトの歌ごころ～」
③楽器を作る、奏でる」
19:00 展示室 講師：西岡信雄 受講者：17人
- 10/12 (月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくらう」
10:30、14:15 地下展示室 参加者：19人
- 10/15 (木) ～ 16 (金) 職場体験 浜松市立曳馬中学校 2年生 5人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- 特別展
20周年記念「和魂洋才～オークラウロと大倉喜七郎～」
11/1 (日) ～ 12/7 (月)
- レクチャーコンサート
「和魂洋才～オークラウロ～」
11/7 (土) 18:30 天空ホール
出演：小湊昭尚 (オークラウロ)、松下尚暉 (オークラウロ)、
元永拓 (オークラウロ)、愛川聡 (ギター)、田中知佐子 (解説)
＜フォルテピアノとその時代 第5回＞
「クラヴィアの国“ウィーン”～フルターで聴く魅惑の室内楽作品～」
11/16 (月) 19:00 音楽工房ホール
出演：小倉貴久子 (フォルテピアノ)、若松夏美 (ヴァイオリン)、
武澤秀平 (チェロ)、小室昌広 (コントラバス)、菊池かなえ (フルート)、
三宮正満 (オーボエ)、塚田聡 (ナチュラルホルン)
- イブニングサロンコンサート
「国際古楽コンクール《山梨》2015入賞者コンサート
～リュートとテオルボにのせて綴る古えの歌さまざま～」
11/11 (水) 19:00 天空ホール
出演：佐藤裕希恵 (ソプラノ)、滝井レオナルド (リュート/テオルボ)
- 講座
フォルテピアノのその時代Ⅱ「フルターとスタインウェイ
～ピアノ100年の歩み・弦楽器から打楽器へ～」
11/9 (月) 19:00 展示室 講師：筒井はる香
- ミニコンサート 天空ホール
11/8 (日) 14:00 「オークラウロ」
出演：小湊昭尚 (オークラウロ)、松下尚暉 (オークラウロ)、
愛川聡 (ギター)、田中知佐子 (お話)
11/24 (火) 14:00 「オークラウロ」
出演：小湊昭尚 (オークラウロ)、土屋雄作 (ヴァイオリン)、
齋藤純一 (ギター)、田中知佐子 (お話)

浜松市楽器博物館だより

平成27年11月1日発行 No.107
編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
URL <http://www.gakkihaku.jp/>